

公益社団法人ユニバーサル志縁センター
2024年度事業報告（案）

<はじめに>

2022年に改正された児童福祉法が2024年4月1日施行され社会的養護自立支援拠点事業が全国でスタートしました。当センターはしっかりと地域で子ども・若者を支えていく取り組みが実施されていくかを注視するとともに、すでに顕在化してきている地域格差によって親を頼れない子ども若者が取り残されないために、若者おうえん基金や休眠預金などを活用し制度ではカバーしきれない若者に寄り添った活動をしている皆様に助成を行ってまいりました。

当センターの会員・理事の皆様も継続する物価高などが生活に影響が及ぼし、所属されている団体におかれましても昨年度に引き続き対応に追われたことと思います。そのような中でありながら多くの皆様からの援助をいただくことで、当センターは無事業を推進することができました。本当にありがとうございました。

本年度特に重点を置いて取り組んだ3つの事業を紹介させていただきます。

1つ目は首都圏若者サポートネットワークの活動です。活動の軸である社会的養護を巢立った若者を応援する若者おうえん基金助成は7回目を迎え、東京都、神奈川県、埼玉県の14団体（伴走支援枠（8団体・21人）、先駆的実践枠（6団体））に総額17,433,998円の助成を実施いたしました。同様のテーマで全国に活動範囲を広げた休眠預金を活用した「親に頼れない若者の独り立ちサポート助成事業」は4年目となり6月には助成先団体の皆さんにもご登壇いただき、シンポジウムも行うことができました。

2つ目は休眠預金活用地域若者サポートネットワーク設立事業助成（2022年度通常枠採択事業）です。首都圏若者サポートネットワークの活動をモデルに全国に同様の活動を広げる取り組みで、九州・沖縄はおおいた子ども支援ネットワークとグリーンコープのコンソーシアム、広島・岡山はどりいむスイッチ、山陰はワーカーズコープ・センター事業団が活動を推進し、それぞれの団体が強みを生かし丁寧に活動を行われています。

3つ目はMinecraftカップを通じた全ての子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会の提供です。2020年から小学校においてプログラミング教育が必修化され、GIGAスクール構想の推進やオンライン授業が普及する中でICT教育のニーズが高まる中で、プログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出を行っていくことを考え、第6回Minecraftカップを実施しました。応募作品数774作品が集まり、2025年2月に無事最終審査会、授賞式を開催することが出来ました。また、今年度も（公財）日本財団から7400万円の助成をいただき、大会運営だけでなく、教員コミュニティや第三の居場所などでの学びの機会づくりに力を入れました。一方で公益法人としての制約などもあり、次年度から本事業をNPO法人デジタルモノづくり協議会に移管し専門特化して活動を広げていくことになりました。

今年度も、事業を推進できたのは会員団体、理事団体の皆様との活動の連携の成果であり、この場を借りて御礼申し上げます。

＜当センターの事業内容＞

当センターはNPO法人や社会福祉法人、労働組合、生協等の協同組合、社会的企業も含めた社会的経済セクターがゆるやかにつながることにより、子ども・若者の自立支援、社会的経済セクターの協働、ユニバーサルなはたらく場づくり支援、大規模災害支援等によって、誰にとってもユニバーサルな地域社会づくりに寄与する5つの事業を行う。

1. 子ども・若者の自立支援事業

1-1. 子ども・若者等の自立を支える支援の仕組みの構築

児童養護施設在籍児の高等学校卒業後の進学率は全高卒者の割合に比べ著しく低く、進学しても一般の学生に比べ中退率も高い。退所後は生活等で困難に直面した際には家族の後ろ盾もない。そのような子ども・若者が自立していくために学識経験者や支援団体の関係者等が参画する首都圏若者サポートネットワーク運営委員会(※1)を組織し、以下の1～3の活動を行ったほか、休眠預金を活用し、支援の仕組づくりの範囲を全国に広げる4の取り組みを実施した。

1. 首都圏若者サポートネットワーク 若者おうえん基金の運営
2. 就労・キャリア支援
3. 調査研究・政策提言
4. 休眠預金等活用法に基づく助成金事業(※2)

※1 首都圏若者サポートネットワーク運営委員会は、当団体が推進する首都圏若者サポートネットワークおうえん基金事業の諮問機関であり、当団体の内部組織。

※2 「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」(休眠預金等活用法)に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等(休眠預金等)を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まりました。休眠預金等を活用した事業を当団体でも実施していくことを第2次5か年計画委員会で議論がなされたことを受け、実施している。

1-1-1. 首都圏若者サポートネットワーク 若者おうえん基金の運営

困難に直面する子ども・若者たちに伴走する支援者(自立援助ホーム、社会的養護自立支援拠点事業等のスタッフを想定)は行政からの補助金で主たる活動を行っており、使途の制約があるため子ども・若者の相談内容によっては補助金を活用できず自己資金やスタッフの自腹で対応する場合がある。そのため補助金とは異なる支援者にとって使い勝手の良い資金が継続的に集まる若者おうえん基金を創設し、公募を行い、基金に集まった寄付金額に応じて支援者への助成を行った。支援者による支援の対象者は、首都圏の支援者が伴走可能な、措置経験の有無に係らず支援が薄い若者(おおむね30歳未満)とする。

(1) 第5回若者おうえん基金助成報告会の実施

寄付をしていただいた皆様に対して若者おうえん基金の活動を伝えることを目的として実施。

【開催概要】

日時：2024年6月15日(土) 15時45分～17時45分
現地会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス

【当日の動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=Fe-Hrbf1Q6Q>

【プログラム】（敬称略）

○開会挨拶

宮本みち子（首都圏若者サポートネットワーク運営委員長）

伊藤由理子（生活クラブ連合会顧問、首都圏若者サポートネットワーク運営委員）

○首都圏若者サポートネットワーク2023年度活動報告

池本修悟（首都圏若者サポートネットワーク事務局長）

○第一部：第6回若者おうえん基金助成先団体活動報告

一般社団法人青草の原れもんハウス 谷口智朗 様 永井杏樹 様

コメンテーター：伊藤由理子（首都圏若者サポートネットワーク運営委員）

認定NPO法人子ども支援センターつなぐ 事務局長 新井香奈様

コメンテーター：村田 早耶香（首都圏若者サポートネットワーク 運営委員）

○第二部：第5回若者おうえん基金助成先団体活動報告

養育里親 中村寛志 様

コメンテーター：池田徹（首都圏若者サポートネットワーク運営委員）

認定NPO法人育て上げネット 執行役員（事業担当）高崎大介様

コメンテーター：村木厚子（首都圏若者サポートネットワーク 顧問）

社会福祉法人スマイルの仲間たち 自立援助ホーム クリの家 施設長 村田要 様

コメンテーター：藤井康弘（首都圏若者サポートネットワーク 副運営委員長）

○閉会挨拶

池田徹（首都圏若者サポートネットワーク 運営委員）

【主催者】

主催：首都圏若者サポートネットワーク

共催：生活クラブ連合会

（2）若者おうえん基金の基金造成活動

【寄付金募集期間】 2024年1月1日から12月31日まで

【基金造成のキャンペーン期間】 2024年9月から12月まで

【寄付総額】 23,533,087円

内 訳	寄付者 (人)	金額 (円)
前年度繰越金		661,670
クラウドファンディング (READYFOR)	476	9,103,000
生活クラブ東京	2,673	4,325,000
生活クラブ埼玉	1,820	2,797,000
生活クラブ神奈川	1,376	2,126,000
カレンダー寄付		88,650
東京労働者福祉基金協会		500,000
ドミノ・ピザ ジャパン		363,037
コープみらい財団		200,000
チャリティ自販機 (生活クラブ飯能DC)		658,952
チャリティ自販機 (伊藤園)		763,933
チャリティ自販機 (風の村)		49,437
シンカブル		1,175,637
その他振込等		720,771
合計		23,533,087

■生協組合員からの寄付

生活クラブ東京、生活クラブ埼玉、生活クラブ神奈川
2023年9月から3か月キャンペーン期間を設けて実施

■チャリティ自販機 (2024年度)

(伊藤園自販機)

5台：山九 (株)

3台：パルシステム神奈川

2台：生活クラブ風の村、セイコーグループ (株)

1台：パルシステム連合会、くらしサポート・ウィズ、かどや製油 (株)、のむら産業、
マブチモーター (株)、(株)石井鐵工所

(生活クラブ自販機)

10台：生活クラブ飯能デリバリーセンター

■HP、SNS等を通じた寄付の募集

期間：2024年1月～2024年12月

Facebook、Instagram、X

■第7回若者おうえん基金クラウドファンディングの実施

第7回若者おうえん基金助成事業の基金造成のためクラウドファンディングを行った。今回は社会的養護当事者の若者がスタッフとして参加。

実施期間：2024年8月26日から11月24日

首都圏若者サポートネットワークの達成金額：9,103,000円

首都圏若者サポートネットワークへの寄附者：のべ476人

クラウドファンディング記事の配信：

- ・社会的養護経験者によるコラム
- ・児童虐待防止月間開始に合わせた街頭募金の実施報告
- ・これまでの助成先団体紹介
- ・応援コメント など

■こどもギフトメンバーとのコラボ

子ども若者の支援に関心のある著名人の皆さんに若者おうえん基金のPRに協力いただいた。

こどもギフトメンバー：犬山紙子氏、福田萌氏、草野絵美氏、ファンタジスタさくらだ氏



■助成先団体の訪問

9月28日 DV対策センター



11月9日 サンカクシャ



11月23日 フェアスタートサポート



11月30日 育て上げネット



■クラウドファンディングHPでの助成先団体活動報告

認定特定非営利活動法人みらいの森

認定特定非営利活動法人育て上げネット

一般社団法人 SS ネット 自立援助ホーム エスポワール

社会福祉法人スマイルの仲間たち 自立援助ホーム クリの家

■コラム

第1回 ご寄付が100万円を突破した時の気持ち

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/339902>

第2回 ちょっと遅れて自己紹介

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/340930>

第3回 親が悪い、だけじゃない

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/341744>

第4回 児童養護施設の子ども達とキャンプにいったよ

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/342359>

第5回 人生は続く

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/343367>

第6回 1か月経過しました

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/344241>

第7回 障害について

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/345052>

第8回 量と質

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/345638>

第9回 継続するコツ

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/346760>

第10回 家庭内事情について

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/347664>

第11回 働くうえでの意識

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/348366>

第12回 街頭募金をやりました

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/349449>

第13回 きっかけ

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/350141>

第14回 最後のコラム

<https://readyfor.jp/projects/wakamono2024/announcements/351161>

■REALVOICE上映会&トークライブの開催

REALVOICE上映会と上映後出演者を交えたトークセッションを開催。

10月19日 神奈川：NPO法人フェアスタートサポート 永岡鉄平さん



10月20日 埼玉：一般社団法人コンパスナビ ブローハン聡さん



11月24日 東京：NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 栗林知絵子さん
NPO法人サンカクシャ 早川智大さん
一般社団法人 ソーシャルビジネス・ネットワーク 中村陽一さん



■第7回首都圏若者サポートネットワークシンポジウム

「協同組合とのコラボで拓く若者就労支援 ～5年間の体験就労プログラムを振り返る～」

この5年間に当ネットワークで取り組んできた体験就労プログラムの手ごたえと今後の展開に向けた発信をし、ご参加の皆様と若者の就労支援について一緒に考えるシンポジウムを開催した。

また、体験就労に参加した若者、支援者、受入れ事業所を対象に行った「体験就労プログラムの意義見える化調査」の結果をシンポジウムで報告。

【開催概要】

日時：2024年10月27日（日）13:30～16:15

会場：生活クラブ東京生活クラブ館 地下1F「スペース1, 2」 およびオンライン

【第1部】 13:30～14:50

<主催あいさつ>

<共催あいさつ>

<来賓あいさつ>

<基調講演1>

鈴木 由美 氏（厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室専門官）

「生活困窮者自立支援事業からみえる若年層への就労支援の課題」

<首都圏若サポ活動報告>

<体験就労プログラムの概要・実績紹介>

<体験就労プログラムの意義見える化調査報告>

【第2部】 15:00～16:15

<基調講演2>

恒松 大輔 氏（社会福祉法人子供の家 自立援助ホームあすなる荘 ホーム長）

「自立援助ホームの若者たちの「働くこと」に向けたチャレンジ」

<パネルディスカッション>

「体験就労プログラムを利用して」

パネリスト

松木 良介 氏（社会福祉法人青少年と共に歩む会 三宿憩いの家 ホーム長）

矢嶋 桃子 氏（社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所ゆずりは 支援員）

新妻 隆子 氏（ワーカーズ・コレクティブRainbow デポー国領駅前フロアマネージャー）

コーディネーター

中根 康子 氏（一般社団法人くらしサポートウィズ 事務局長）

<各地のコーディネーターからのコメント>

後藤 尚美 氏 (首都圏若者サポートネットワーク事務局)

松川 由実 氏 (NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会)

河本 稀英 氏 (一般社団法人コンパスナビ)

<閉会挨拶>



第7回首都圏若者サポートネットワーク シンポジウム

協同組合とのコラボで拓く若者就労支援

毎年秋に開催している首都圏若者サポートネットワークのシンポジウム。今年は「協同組合とのコラボで拓く若者就労支援」と題して、当ネットワークがこの5年間に取り組んできた体験就労プログラムの手ごたえと今後の展開を発信すると共に、ご参加くださる皆さまと若者の就労支援について一緒に考える時間したいと思います。体験就労に参加した若者、支援者、受入れ事業所を対象におこなった「体験就労プログラムの意義見える化調査」の結果も報告します。

日時 2024年 **10月27日**(日)
13:30-16:15 ※開場 13:00

会場 生活クラブ東京生活クラブ館 地下1F「スペース1, 2」
東京都世田谷区宮城3-13-13 ※小田急線「経堂駅」より徒歩3分(経堂駅改札口を出て左へ)
オンライン参加も可能 ※下記申込フォームで「オンライン会場にて参加」をお選びください

プログラム 第1部 13:30-14:50

主催あいさつ 藤井康弘 (全国若者支援推進ネットワーク 代表幹事、首都圏若者サポートネットワーク 副運営委員長)
共催あいさつ 伊藤由理子 (生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 顧問、首都圏若者サポートネットワーク 運営委員)
来賓あいさつ

基調講演1 生活困窮者自立支援事業からみえる若年層への就労支援の課題

鈴木由美氏 [厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室 専門官]

首都圏若者サポートネットワーク活動報告
体験就労プログラムの概要・実績紹介
体験就労プログラムの意義見える化調査報告

第2部 15:00-16:15

基調講演2 自立援助ホームの若者たちの「働くこと」に向けたチャレンジ

横松大輔氏 (社会福祉法人子供の家 自立援助ホームあすなろ荘 ホーム長)

パネルディスカッション 体験就労プログラムを利用して

[パネリスト] 松木良介氏 (社会福祉法人青少年と共に歩む会 三塚塾いの家 ホーム長)

矢嶋桃子氏 (社会福祉法人子供の家 アフターケア船岡所せりは 支援員)

新妻隆子氏 (ワーカーズ・コレクティブRainbow デポ-愛橋駅前フロアマネージャー)

[コーディネーター] 中根康子 (一般社団法人くらしサポートワーズ 事務局長、首都圏若者サポートネットワーク 事務局)

[コメント] 各地の体験就労のコーディネーター 松川由実氏 (NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会)

河本稀英氏 (一般社団法人コンパスナビ)

後藤尚美 (首都圏若者サポートネットワーク事務局)

閉会あいさつ 池田徹 (ユニバーサル志願センター 代表理事、首都圏若者サポートネットワーク 運営委員)



鈴木由美氏



横松大輔氏

▶ 申込フォーム



参加申込 申込フォーム → <https://forms.gle/Lg5i38N2bCcDPWx7A> ※右QRコードからアクセスできます
10月25日(金) 10:00 申込締切

参加料金 無料

お問合せ

首都圏若者サポートネットワーク事務局

東京都港区新橋4-24-10 アソルティ新橋ビル5階 ユニバーサル志願センター内
TEL → 03-6450-1820 / FAX → 03-6450-1821 / MAIL → info@u-nishin.jp

【主催】首都圏若者サポートネットワーク 【共催】生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
【後援】アフターケア事業所全国ネットワークえんじゅ、日本労働者協同組合連合会、日本労働組合総連合会東京連合会(連合東京)、労働者福祉中央協議会、生活協同組合コープあらい、パルシステム共済生活協同組合連合会

首都圏若者
サポート
ネットワーク



■街頭募金

こども家庭庁や東京都が設定している児童虐待防止月間の周知と貧困や虐待等で親を頼れない若者が将来を諦めず生きていけるために伴走支援をしている団体等を応援する若者おうえん基金の認知度を高めるために新宿駅南口・東南口エリアで街頭募金を実施。

<日時>

2024年11月1日7時～19時（準備開始6時45分 撤収含め最大19時15分まで）

<場所>

新宿南口 LUMINE2前
新宿東南口広場

<活動>

- ・ボランティア募集（10月22日 説明会の実施）
参加者社会的養護当事者、学生、生協理事、助成先団体、若者支援団体の皆様
- ・募金箱を持って募金活動
- ・活動を紹介するパネルの設置、チラシの配布



■Domino's For Goodデー

「ピザでつながる」をパーパスとするドミノ・ピザが、より多くの人々に「つながり」をお届けする日にしたいという思いから、「ワールド・ピザ・デー」である2月9日を世界的に社会貢献に取り組む日と定め、2022年から「Domino's for Goodデー」のプロジェクトをスタート。

2025年2月21日当日のピザお買い上げ1枚につき10円、好きなサイド2品700円お買い上げ1セットにつき10円を社会貢献活動の原資に積み立てる仕組み。翌月、若者のメンタルヘルス支援に取り組む「NPO法人 Light Ring.」「一般社団法人若草プロジェクト」「首都圏若者サポートネットワーク」の3団体に各325,000円が寄付された。本寄付は2025年に造成される若者おうえん基金に充当。

■若者おうえん基金クリスマスパーティ（交流会）

若者の提案で基金造成を祝うイベントを開催。

日時：12月8日13時～15時

プログラム：

- 12:30 開場
- 13:00 開会
開会挨拶：首都圏若者サポートネットワーク 運営委員長 宮本みち子
活動報告
- 13:15 乾杯
- 13:25 歓談タイム
- 13:45 ゲストライブ：SAKIさん*

14:15 ミニトーク&交流企画

15:00 閉会

司会：山本昌子さん、愛子さん

*ライブアーティスト：SAKIさん

北海道出身。社会的養護経験者。城西国際大学映像芸術学科芸能コース卒。女優とシンガーソングライターとして活動。映画『明日を綴る写真館』(24/秋山純監督)ではヒロインと主題歌を担当した。オーディションを勝ち抜きヒロインの座を射止めた映画『アーバクロウ』(23/橋本一郎監督)で、映画初出演とは思えない存在感で観客を魅了した。2025年には主演を務める映画『鍵から抜け出した女』の公開が控えている。その他にも短編映画『アオイ口の怪獣』(24/三輪ココロ監督)、主演を務める短編映画『Ice of giraffe』(24/Nobuyuki Morikawa)や、2025年待機作に長編作品の主演や、主題歌の担当がある。

会場：日本橋ライフサイエンスビルディング 9階 会議室（東京都中央区日本橋本町2-3-11）



■メディア掲載

朝日新聞



<https://www.asahi.com/articles/ASSBX0Q5BSBXUTFL003M.html>

毎日新聞



<https://mainichi.jp/articles/20241102/k00/00m/040/053000c>

福祉新聞





公益財団法人渋沢栄一記念財団『青洲』



(3) 第7回若者おうえん基金助成事業の実施

造成した基金を元に助成の公募を行った。

【目的】

伴走支援枠：本公募の目的は、社会的養護の下に暮らす（暮らした）方をはじめ、社会生活が困難な状況に置かれている若者が、社会的孤立や経済的困窮に陥ることなく自分らしく生きるための活動に従事する伴走者を支援すること

先駆的实践枠：本公募の目的は、社会的養護の下に暮らす（暮らした）方をはじめ、社会生活が困難な状況に置かれている若者が、社会的孤立や経済的困窮に陥ることなく自分らしく生きるための活動に従事する伴走者やそのための仕組みづくりを支援すること

【対象】

社会的養護の下に暮らす（暮らした）方をはじめ、社会生活が困難な状況に置かれている若者への支援を、東京都、埼玉県、神奈川県内で行う「伴走者」。

【助成内容】

- ・伴走支援枠 子ども・若者たちに寄り添う伴走者の経費の補助（上限150万円）
- ・先駆的实践枠 既存の制度では支援や活動が難しい先駆的实践（上限300万円）

【実施スケジュール】

助成団体の公募期間：2024年9月1日～11月30日

第一次審査会：2024年12月
第二次審査会：2025年1月
採択団体決定、助成金交付：2025年2月

【選考方法】

- ・一次審査：書類選考
- ・二次審査：面接

選考委員が必要性、信頼性、妥当性、伴走性（寄り添い）、先駆性（先駆的実践枠のみ）の評価基準を5点満点で評価し、その点数を踏まえて、選考委員の合議の上、理事会で決定した。

【選考委員】

小木曾宏（委員長）	東京経営短期大学
朝比奈ミカ	市川市生活サポートセンターそら
伊藤由理子	生活クラブ連合会
奥野哲也	弁護士
田村崇	鳥取こども学園 自立援助ホーム

【公募に関する広報】

WEBサイト、SNSでの周知や、You Tubeでのライブ配信イベント等を実施。

【選考結果】

伴走支援枠選考結果 助成件数 21件
助成額合計 8,135,000円

先駆的実践枠選考結果 助成件数 6件
助成額合計 9,298,998円

【第7回若者おうん基金助成採択団体】

○伴走支援枠選考結果

伴走支援枠

助成先団体	所在地	申請内容	金額(円)
一般社団法人アマヤドリ	神奈川県	27歳の若者への伴走支援	750,000
		24歳の若者への伴走支援	750,000
社会福祉法人三愛学園 自立援助ホーム三愛子ひつじ寮	埼玉県	20歳の若者への伴走支援	144,000
認定NPO法人 子ども支援センターつなぐ	神奈川県	18歳の若者への伴走支援	380,000
		17歳の若者への伴走支援	160,000
		16歳の若者への伴走支援	290,000
		19歳の若者への伴走支援	190,000
		21歳の若者への伴走支援	90,000
19歳の若者への伴走支援	320,000		
一般社団法人Masterpiece	東京都	22歳の若者への伴走支援	750,000
一般社団法人コンパスナビ	埼玉県	22歳の若者への伴走支援	600,000
		18歳の若者への伴走支援	600,000
一般社団法人反貧困ネットワーク	東京都	20歳の若者への伴走支援	500,000
		18歳の若者への伴走支援	493,000
		17歳の若者への伴走支援	500,000
一般社団法人hann	神奈川県	20歳の若者への伴走支援	501,600
		23歳の若者への伴走支援	341,200
		20歳の若者への伴走支援	220,800
		20歳の若者への伴走支援	178,800
		17歳の若者への伴走支援	225,600
特定非営利活動法人 ウィズ・ザ・スモール シェアハウスサポート	埼玉県	19歳の若者への伴走支援	150,000

【東京都】

エリア：東京都内全域

対象者：東京都の自立援助ホームジョブトレーナー、アフターケア相談所およびフオスタリング機関の支援者が関わる、概ね30歳までの若者。

コーディネーター：一般社団法人くらしサポートウィズ、首都圏若者サポートネットワーク事務局

期間：2024年4月～2025年3月

実績：2024年度は12件の体験就労が終了しました。前年度に比べると件数は減りましたが、年間を通して応募が入るようになりました。今年度は応募をしてから、面談や体験につながらなかったケースが多く見られました。理由はさまざまですが、応募してから生活状況が変わったり、心身のバランスを崩したりするケースが多いようです。また、本人のこだわりが強く、体験先が決まらないケースもありました。就労（学生アルバイト、正規採用）につながったケースは今年度5件ありました。

	新規応募	面談実施	体験先決定	体験終了	体験前	問い合わせ他
件数	13件(15)	10件(17)	9件(24)	12件(20) ※	0件	10件

(カッコ内は前年度数値)

※2023年度応募者含む

【埼玉県】

エリア：埼玉県内全域

対象者：埼玉県の自立援助ホームジョブトレーナーが関わる、概ね30歳までの若者。

コーディネーター：一般社団法人コンパスナビ

期間：2024年4月～2025年3月

実績：コーディネーターが事業所開拓に力を入れ、受入事業所が増えたことにより実習件数が倍以上に増えました。ワーカーズコープとも話あいを重ね、受け入れていただくことができました。生活クラブ、ワーカーズコープ、パルシステムと多角的な連携が進みました。

	体験件数	インターク面談	顔合わせ面談	振り返り面談
件数	13件(6)	11件	14件	10件

【神奈川県】

エリア：神奈川県内全域

対象者：神奈川県の自立援助ホームジョブトレーナーが関わる、概ね30歳までの若者。

コーディネーター：NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会

期間：2024年4月～2025年3月

実績：プログラムについての認知が広がり、参加者が増えました。ワーカーズコレクティブ協会、生活クラブ、パルシステムの事業所等で受け入れていただきました。体験実習先での就労（アルバイト）につながったケースが初めてありました。

	体験件数	インターク面談	顔合わせ面談	振り返り面談
件数	14件(10)	10件	14件	11件

【受け入れ事業所（東京・埼玉・神奈川）】

ワーカーズコープ：保育園、高齢者ショートステイ

生活クラブ：店舗、配送センター

パルシステム：センター業務、高齢者デイサービス
コープみらい：店舗、高齢者デイサービス
ワーカーズ・コレクティブ：店舗、生協配送、高齢者デイサービス、リサイクルショップ、
カフェ、お弁当屋

【成果】

- これまで実習先でのアルバイトにつながる実績が増えてきていましたが、今年度は正社員雇用が実現したケースがありました。自立援助ホームの支援者、コーディネーター、事業所の担当者が連携してサポートすることが大事だということで、次年度以降の就労継続支援の実践方法の方針に盛り込むことになりました。

(2) 体験就労プログラム意義見える化調査

5年間のプログラム実施のなかで、参加者が自信をつけて次のステップに進んだ、受入れ事業者側から学びや気づきを得たなどの報告があり、有意義なプログラム実施になっているとの手ごたえがあり、この度、当プログラムの意義と課題を見える化するための調査を実施し、報告書にまとめました。

[体験就労プログラム意義見える化調査結果報告書（全体）](#)

調査目的：首都圏若サポ体験就労プログラムに関する次のことを明らかにする

- ①どのような前向きな変化を生み出したか
- ②プログラムのどの部分、機能が有意義であったのか
- ③事業継続、改善のための課題

調査対象：2023年4月～2024年7月の体験参加者本人・伴走支援者・受入事業所担当者

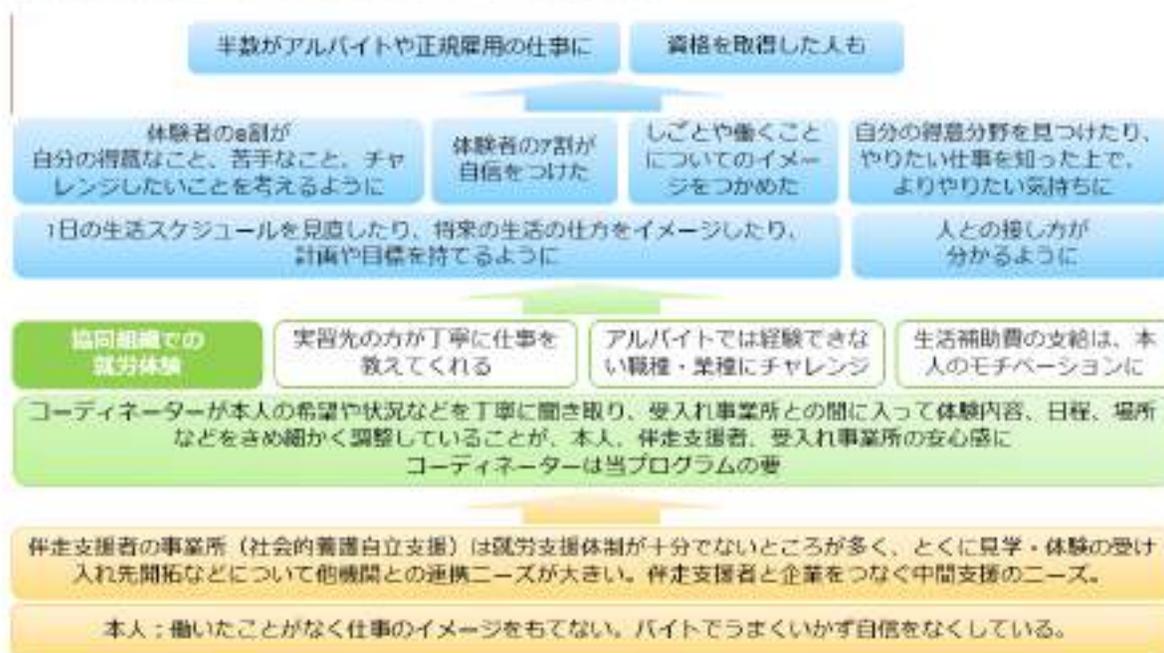
調査期間：2024年8月

調査方法：WEBアンケートフォームによる配布・回収、本人には伴走支援者経由で配布
配布数・回収率：

	配布数	回収数	回収率
本人	40	18	45.0%
伴走支援者	27	21	77.8%
受け入れ事業所	34	28	82.4%
伴走支援者が回答したケース数	30		

まとめ：

調査から見える当体験就労プログラムの意義



1-1-3.調査研究・政策提言

助成先の事業者に対して研究者と共にヒアリング調査等を実施し、従来の公的補助金の適用範囲では支援することができないケースについて、阻害要因を明確化し、類型化やその対応策のデータベース化などを行ない、制度変更が必要なものについては政策提言を行う。調査研究・政策提言は首都圏若者サポートネットワーク運営委員会内に設置する「政策提言WG」「採択団体フォローアップWG」のメンバーを中心に実施。

(1) 社会的養護自立支援等、困難を抱えた若者への支援施策の充実に向けた政策提言

児童福祉法改正により、児童自立生活援助事業が拡充され、社会的養護下の子ども・若者が20歳を過ぎても支援を受けられるようになったこと、拠点事業にて社会的養護措置解除者と同様の困難を抱えた若者も支援を受けられるようになったことは、大きな進展でした。しかしながら、それらの実施状況は施設や自治体によってばらつきがあるなどし、それらを利用する権利がある子ども・若者が必要に応じて利用できる状態になっていない場合があります。

そこで、これらの若者への支援施策の充実に向け、首都圏若者サポートネットワーク、アフターケア事業全国ネットワークえんじゅ、全国自立援助ホーム協議会の3団体で2024年度7月3日にこども家庭庁家庭福祉課に申入れを行いました。

【政策提言書】

[社会的養護自立支援・同様の困難を抱えた若者への支援施策充実に向けた政策提言_v3](#)

補足資料：[都道府県に関するヒアリング調査結果報告（えんじゅ）](#)

【政策提言の骨子】

1. 社会的養護自立支援拠点事業の地域間格差是正
2. 児童相談所の機能強化
3. 自立援助ホームでの支援の充実
4. 若者向け居住支援施策の拡充
5. 自立支援を必要とする子ども・若者の意見形成・意見表明・意見実現の保障



<https://wakamono-support.net/news/684/>

(2) 都道府県社会的養育推進計画のパブリックコメント提出サポート

2024年度末に各都道府県が社会的養育推進計画を策定することから2024年12月から2025年1月にかけて各地でパブリックコメントの募集がありました。特に施設出身者以外の方の利用保障の観点から計画案のレビューを行い、若者おうえん基金助成先の2団体がコメントを提出するのをサポートしました。

(3) こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）の設立に向けた取り組み

若者支援の公的施策や民間の取り組みが未だ十分ではないなか、困難に直面する若者たちの生きづらさの解消、若者の権利の保障を実現するために、若者支援領域で活動する民間団体を束ねる既存のネットワーク・協議会に参加を呼びかけ、こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）の設立に向けた取り組みを行いました。呼びかけ人は池田徹代表理事、村木厚子さん（全国社会福祉協議会会長、首都圏若者サポートネットワーク顧問）、谷口仁史さん（NPO法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事）。2025年度中に任意団体設立、翌年に法人化を目指します。

■こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）の設立に向けた 第1回意見交換会

日時：2024年9月14日（土）14:00～17:00

場所：日本橋ライフサイエンスビルディングLSB-913会議室・オンライン

参加者：当領域で中間支援機能をもつ26団体、37名

■こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）の設立に向けた 第1回準備委員会

日時：2024年11月4日（月・祝）19:00～21:00

場所：オンライン

参加者：準備委員14人、こども家庭庁3人

■関係中間支援団体へのアンケート・ヒアリングの実施

実施期間：2024年11月～12月

アンケート回答数：10団体

ヒアリング実施団体数：6団体

■こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）の設立に向けた 第2回準備委員会

日時：2024年12月25日（水）17:00～19:00

会場：日本橋ライフサイエンスビルディングLSB-912会議室・オンライン

参加者：準備委員14人

■こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）の設立に向けた 第3回準備委員会
日時：2025年3月9日（日）19:00～20:30
場所：オンライン
参加者：準備委員11人

■こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）の設立に向けた 第2回意見交換会
日時：2025年3月26日（火）18：30～21：00
場所：オンライン
参加者：当領域で中間支援機能をもつ団体の代表28人、こども家庭庁3人

（4）若者と地域のユニバーサルな志縁のありようを考える研究会

若者と地域のユニバーサルな志縁のありようが10年後にどのような形で実現していると良いのか、先進事例から学び、検討する研究会を立ち上げました。

■10年後の若者と地域のユニバーサルな志縁のありようを考える研究会準備会
日時：2024年4月11日 21:00～22:00
場所：オンライン
参加者：池田徹代表理事、池本専務理事、林大介理事、小田川華子理事、高橋亜美さん（えんじゅ理事長）、矢野茂生さん（えんじゅ副理事長）

■第1回研究会
日時：2024年8月27日（火）15:00～17:30
場所：LiFEREE WORK会議室B・オンライン
講師：飯田大輔さん（社会福祉法人福祉楽団 理事長）

■第2回研究会
日時：2025年2月26日（水）15:30～17:30
場所：LiFEREE WORK会議室B・オンライン
講師：両角達平さん（日本福祉大学）
『若者からはじまる民主主義～スウェーデンの若者政策～』の紹介

1-1-4.休眠預金等活用法に基づく助成金事業

（1）休眠預金活用「親に頼れない若者の独り立ちサポート助成事業」（2023年度緊急枠採択事業）

首都圏にとどまらず、社会的養護経験のある若者を支援する全国の団体を支援するため、日本民間公益活動連携機構（JANPIA）が募集する「原油価格・物価高騰、子育て及び新型コロナ対応支援枠」の資金分配団体に申請し、「親に頼れない若者の独り立ちサポート助成事業」が採択されました。

当事業は、生活困窮や社会的孤立など社会生活に困難を抱える社会的養護を巣立ったケアリーバーの若者やそれに類する若者（虐待被害の経験者など）に伴走支援を行う事業に助成を行い、ケアリーバー等の若者たちが寄り添い型の伴走支援を受けることで、

- 深刻な経済的困窮、住居喪失などの危機的な状況から抜け出すことができること
- 支援者からの支えを感じながら自分の生命、生活を前向きに考え、次の一步を選択できるようになること

を目指しました。

毎月、実行団体と面談し、事業実施、組織運営等に関して意見交換、情報提供などを行ったほか、研修・交流会の実施、実行団体から聞き取った現場の課題を踏まえ、政策提言を行いました。

【採択金額（資金分配団体として受けた助成金額）】 72,748,980円
 【採択日（資金分配団体として採択された日）】 2023年12月15日
 【実行団体の事業期間】 2024年4月～2025年2月

【実行団体・事業名一覧】

法人名	事業名	助成金額（円）
特定非営利活動法人サンカクシャ（東京都）	親を頼れない若者の住まいの伴走支援と政策提言	10,000,000.00
一般社団法人ある（沖縄県）	実家に頼れない若年妊産婦の育児サポート事業	10,000,000.00
NPO法人陽和（愛知県）	よりそい型伴走支援事業	6,868,000.00
一般社団法人アマヤドリ（神奈川県）	相談支援とエンパワメントプログラム開発	6,972,006.00
一般社団法人umau.（福岡県）	社会的養護が必要だった若者の自立支援「#自己再現」プロジェクト	5,405,000.00
特定非営利活動法人秋田たすけあいネットあゆむ（秋田県）	困難を抱える若者の居場所と住居支援事業	6,874,000.00
NPO法人アクセプト・インターナショナル（東京都）	非行・犯罪に関する悩みを持つ若者、社会的養護を巣立つ若者に向けた伴走支援事業	7,004,410.00

【各団体の事業概要・採択理由一覧】

[こちらのリンクからご覧いただけます](#)

【研修・交流会】

2024年 4月 2日 ロジックモデル研修
 2024年 6月 3日 学習交流会（テーマ：日頃の悩みや困りごと、なんでも話し合おう）
 2024年 7月25日 学習交流会（テーマ：政策提言）
 2024年10月30日 学習交流会（テーマ：ファンドレイジング）
 2024年11月13日 学習交流会（テーマ：団体で開発している若者自立支援プログラム）
 2025年 1月27日 学習交流会（テーマ：振り返り共有）

【シンポジウム】

親に頼れない若者の独り立ちサポート 若者に寄り添うNPOのチャレンジ
『未来への扉 若者に寄り添うNPOのチャレンジ』発行記念シンポジウム
 日時：2024年6月15日（土）13:00～15:30
 場所：法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎Y402

基調講演

「若者を孤立させない社会デザインへの挑戦
 ～はたらくや参加をつなぐの軸としていくために～」
 矢野 茂生 さん（NPO法人おおいた子ども支援ネット 理事長）

パネルディスカッション

粟木原 薫 さん（アフターケア事業所カモミール 所長）

渋谷 幸靖 さん（NPO 法人陽和 理事長）

ブローハン 聡 さん（一般社団法人コンパスナビ 事務局長）・若者2人

コーディネーター 小田川 華子（当センター 事務局長）

【政策提言】

- 昨年度から主に若者居住支援の政策提案をしてきた東京都議会議員に6月15日のシンポジウムに参加してもらい、若者支援の重要性についてより深く伝えることができました。
- 社会的養護自立支援拠点事業が予算化されていない秋田県、同事業が児童相談所のみで実施されている愛知県の社会的養育推進計画案をレビューし、予算化および対象者拡大の観点でのパブリックコメントの提出をサポートしました。

■実行団体主催シンポジウムでの社会発信

NPO法人サンカクシャ主催シンポジウム「若者が必要としている支援とは？～若者の包括的支援を広げるための官民連携のあり方を考える～」

日時：2024年12月25日（水）13:30-15:00

場所：日本橋ライフサイエンスビル912・オンライン

担当プログラムオフィサーとして小田川事務局長が登壇し、移行期の若者支援施策が日本では遅れており、政策課題として重要であることを発信した。



■JANPIA総合評価2024年度に取り上げてもらいました

助成事業を通して事業サポートならびに政策提言を行ってきたことについて、社会課題の解決のために休眠預金を有意義に活用できているとして、当事業のこれまでの取り組みが高く評価され、JANPIA総合評価に取り上げてもらいました。

「JANPIA総合評価2024年度」

第2部 詳細テーマ毎の成果に関する詳細分析

[第2節 親に頼れないケアリーバー等の若者への支援事業](#)

(2) 休眠預金活用「地域若者サポートネットワーク設立事業助成」(2022年度通常枠採択事業)

首都圏若者サポートネットワークのような、多様な市民セクターが協働して若者を応援するネットワークを各地に設立することを目的とする事業。「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく指定活用団体としてJANPIAが資金分配団体の公募(2022年度通常枠)を行った際に「地域若者サポートネットワーク設立事業」を申請し、採択。実行団体の公募、審査を2022年度に行い、下記の3団体を採択し、3年間の事業を実施。

【採択金額(資金分配団体として受けた助成金額)】97,826,500円

【実行団体一覧】

NPO法人おおいた子ども支援ネット(九州・沖縄)

NPO法人ワーカーズコープ・センター事業団(島根・鳥取・兵庫県北部)

NPO法人どりいむスイッチ(広島・岡山)

【実行団体の事業期間】 2023年3月～2026年2月の期間内(3年間)

【取り組み状況】

- 各地で地域若者サポートネットワークの運営委員会が立ち上がり、基金造成、地域の支援団体・支援者への助成、社会啓発の取り組みを行っており、当法人のプログラムオフィサーが各団体の取り組みをサポート。



1-2. 子どもの貧困対策に関する各種事業の推進(関連団体とのネットワークおよび情報交換、学習会への参加、研修会の開催等)

1-2-1. 一般社団法人全国食支援活動協力会「こども食堂サポートセンター」への参画

(1) こども食堂サポートセンター

家庭間の経済格差が進み子どもの貧困が深刻化する中で2014年子どもの貧困対策法が施行され、子ども食堂、学習支援等が各地で急増したが、これらの事業者の運営基盤は脆弱である。そこで、各地の子どもの貧困に取り組む事業者(※3)と連携し、運営支援や地域支援の紹介等を行う。

また、休眠預金を活用した「こども食堂サポート機能設置事業」「子どもの居場所づくり応援事業」こども家庭庁「令和6年度 見守り体制強化促進のための広報啓発事業」毎日新聞東京事業団「こども食堂運営継続 応援プロジェクト」等に委員として池本専務が参画。

※3 各地のこども食堂が活動しやすくなるように、情報を流す仕組みをつくり、企業等と連携して、活動の環境整備を応援するプロジェクト「こども食堂サポートセンター」に参加・協力。

ホームページ：<https://mow.jp/>

第24回「広がれ、こども食堂の輪！推進会議」

日時：2024年5月20日

第25回「広がれ、こども食堂の輪！推進会議」

日時：2024年8月9日

第26回「広がれ、こども食堂の輪！推進会議」

日時：2024年12月3日



こども家庭庁「令和6年度 見守り体制強化促進のための広報啓発事業」研修会

1-2-2. 連合東京「子ども・若者支援プラットフォーム」への参画

連合東京が設立した教育支援、就労支援、政策提言、情報発信などを行う子ども・若者支援プラットフォームに参画。総会、理事会、企画・運営委員会に池本専務が参加。HOPE事務局より東京都の子ども若者政策に対するヒアリングを受ける。



1-2-3.ドミノピザとの協働

ドミノ・ピザが2年ぶりに取り組んだ『クリスマスのための特別な「無料ピザで地域支援®」』に企画協力。全国の社会的養護を必要とする子どもの支援関連団体にピザをプレゼント。全国の児童養護施設、自立援助ホームなど 1,594団体を対象に、ピザ BENTO2万 5 千個を12月9日から15日の期間に贈呈。支援対象団体の代表者が参加する贈呈式にも企画協力者として参加。

■贈呈式日時

2024年11月29日(月)13:00~14:00

■会場

ドミノ・ピザ ジャパン本社会議室



2. 社会的経済セクターの協働事業

2-1. 人材育成研修の実施

特定非営利活動法人等で働くスタッフの人材育成研修は企業と比べ充実していないため、キャリア形成を含め、特定非営利活動法人等のスタッフの人材育成事業(関連団体とのネットワークおよび情報交換、講師派遣)を実施する。具体的な研修内容として事業策定におけるロジックモデル策定、コミュニティ・オーガナイズの技法に基づくワークショップなどを実施する。

(1) 休眠預金活用「親に頼れない若者の独り立ちサポート助成事業」(2023年度緊急採択事業) ロジックモデル研修

日程：2024年4月2日(火) 9:00～13:00

内容：採択団体が申請した事業の目標を明確にし、それに向けてどのような取り組みをすべきなのか、を改めて見直し、事業計画をブラッシュアップする。また、事業の進捗管理のための指標づくりも行う。

会場：オンライン

講師：新藤健太氏(日本社会事業大学)

(2) 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム総会関連イベント シンポジウム「孤独・孤立対策における若者支援」

日程：2025年3月7日(金) 15:30～17:30

会場：オンライン

講師・パネリスト：小田川華子理事

講演タイトル：社会的養護から独り立ちする若者たちの困難と支援の創出
～中間支援の取り組み～

(3) 一般社団法人共生社会推進プラットフォーム主催 第7回FLECフォーラム 特別シンポジウム「自立支援の新たな風～支援対象の拡大に向けて～」

日程：2025年3月16日(日) 9:30～12:30

会場：早稲田大学国際会議場

講師・パネリスト：小田川華子理事

講演タイトル：現場での寄り添い支援をサポートする中間支援の取り組み

2-2. 政策提言のためのプラットフォーム運営

社会課題(地域共生、子どもの貧困、震災復興等)に取り組む事業者と連携し、現状の制度では対応できない事例を集め、NPO、生活協同組合、労働組合、共済、社会的企業等社会的経済セクター等のステイクホルダーが集まり、政策提言のためのプラットフォーム(※4)を形成し、課題解決のための政策を検討する場を設ける。

※4 2011年に発足した政策提言プラットフォーム「市民キャビネット」の事務局の運営を当団体が担い、各ステイクホルダーへの働きかけや意見調整、関係機関(行政機関・議員を含む)への働きかけを行っている。また2017年に発足した首都圏若者サポートネットワークも各地域のアフターケアの課題を政策提言していくプラットフォームとしての機能を持つ。政策提言を事業として行う理事・会員団体との連携や首都圏若者サポートネットワークの調査研究・政策提言ワーキングとも連携を模索する。

(1) 第12回協働型災害訓練in杉戸 への参画

2011年3月11日に発災した東日本大震災の経験と教訓を大規模災害に活かそうとスタートした「協働型災害訓練」は今年で12年目。今回のテーマは「地域のチカラ×学生のチカラ～防災×ゲーミフィケーション～」。発災直後の応急期においては、行政や関係機関が動き出すまでにはどうしてもタイムラグが生じるがその時に最大限の力を発揮できるのは、地域のチカラ×学生のチカラ。今回は、防災×ゲーミフィケーションと題し、様々なテクノロジーを用いてよりボーダーレスな支援をどう行うべきかを学ぶ機会となった。

【開催概要】

日時：2025年2月7日(金)、8日(土)

場所：①彩の国いきいきセンターすぎとピア(杉戸町堤根4742-1)、②オンライン (zoom)

対象：・自治体や団体で防災減災の担当をしている方、興味のある方

・地域などで防災減災活動に関わっている方、興味のある方

・SDGs防災やICS(災害現場等の指揮系統や管理手法)に興味のある方など



2-3.社会課題解決に取り組む事業者の情報発信支援

ホームページ(年12回程度)、メールマガジン(月1回)、インターネット放送(月1回)等、情報発信支援のツールを用意し、社会課題解決に取り組む事業者の活動を全国の中間支援NPO等に紹介しました。

(1) ホームページ

- [法人ホームページ](#)「お知らせ」欄にて情報発信
- 「[就労支援×地域づくりに役立つ情報サイト](#)」にて関連の情報発信
- [若者おうえん基金クラウドファンディング](#)「[貧困や虐待等で親を頼れない若者が将来を諦めず生きていける伴走支援を](#)」にて、助成先団体等の取り組みを紹介しました。

(2) メールマガジン

- メールマガジンに代えて当法人の以下のFacebookページ、Xで発信
 - 法人twitter https://twitter.com/u_shienにて随時、情報発信
 - 法人FB <https://www.facebook.com/u.shienschakai/>にて随時、情報発信

(3) 動画配信

ZOOMで若者おうえん基金報告会、首都圏若者サポートネットワークシンポジウムを配信

2.4.特定非営利活動法人等の基盤強化

特定非営利活動法人等からの起業・運営や会計・税務の相談を随時受け付けるとともに、必要に応じて専門家(当団体のNPO設立・運営相談インストラクター)による相談業務、法人運営者向けの研修会の開催、支援ツール提供、特定非営利活動法人等のネットワーキングの場等の支援メニューを通して、特定非営利活動法人等の基盤強化を行う。

特定非営利活動法人の起業・運営や会計・税務等の相談会や研修会は、当団体が主催して実施し、実施に際して、NPO支援東京会議(※5)に所属している税理士、公認会計士の先生方などに講師や相談員を依頼している。

※5 NPO支援東京会議は、NPO支援組織や公認会計士、税理士、社会保険労務士、行政書士などの有志により、専門家の立場からNPOや市民活動団体に対する団体運営や日常的な実務のサポートを東京都内中心に行う団体で、当団体が事務局を担っている。

(1) 支援ツールの提供による機能強化

専門家派遣や講演会、NPO支援を継続して行う。

【NPO法人運営相談】

NPO法人デジタルものづくり協議会

【支援ツールの普及】

NPO活動保険（保険代行社、あいおいニッセイ同和損害保険）

チャリティ自販機の設置

(2) NPO支援東京会議の事務局運営

NPO支援東京会議（会計士、税理士等の専門家ネットワーク）の事務局業務を行った。

■NPO支援東京会議12月定例セミナー・相談会

実施日：2024年12月26日

場所：神明いきいきプラザ

<プログラム>

18：00から18：30 会計個別相談

18：30から20：00 「解説！NPO法人実務ハンドブック第3版」

20：00から20：30 質疑応答

*今回の会計個別相談はセミナー開始前に実施

3. ユニバーサルな地域社会づくり事業

3-1. 志縁をつなぐ文化芸術活動の実施支援

普段NPO活動に接点を持たない住民が、地域で活動しているNPOを知り、地域における関係構築を志縁(支援)することを目的に、地域のNPO等がアーティストと連携した、チャリティコンサート等の文化芸術活動(文化祭)の開催支援を実施する。

(1) 社会的養護出身者によるドキュメンタリー映画PRサポート

2024年度は首都圏若者サポートネットワーク主催として社会的養護を巣立った若者の現状を多くの人に知ってもらい、「若者おうえん基金」を呼び掛けるために社会的養護出身者の生の声を伝えるドキュメンタリー映画「REALVOICE」とタイアップし上映会を開催した。映画の主題歌は加藤登紀子会長が楽曲提供。

【作品】ドキュメンタリー映画「REALVOICE」<https://real-voice.studio.site/>

【楽曲提供】 加藤登紀子会長「この手に抱きしめたい」

(前掲)

10月19日 神奈川：NPO法人フェアスタートサポート 永岡鉄平さん

10月20日 埼玉：一般社団法人コンパスナビ ブローハン聡さん

11月24日 東京：NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 栗林知絵子さん

NPO法人サンカクシャ 早川智大さん

一般社団法人 ソーシャルビジネス・ネットワーク 中村陽一さん

3-2. 子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供

2020年から小学校においてプログラミング教育が必修化され、プログラミング体験を通してプログラミング的思考を育み、また身近な問題発見・解決にコンピュータやソフトウェアの働きを活かし、よりよい社会を創っていく態度を養成することが期待されている。しかし、現時点では子どもたちがプログラミングに接する機会は限定的であり、地理的、或いは、環境的な差異なく、プログラミング体験の機会を提供することが急務となっている。

このような状況を踏まえ、プログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出をコンクール形式で行っていくことを考え、特に、“届き辛い”とされる子供たちに対しては、技術者と支援者とが連携したサポート体制を組むことで、作品づくりにチャレンジする環境創りを昨年度に引き続いて実施。

【大会目的】

- ・デジタルモノづくり（クリエイティブなSTEAM教育）の普及
- ・Minecraftの学習コミュニティ（コーチ育成）を育成していく
- ・コミュニティの発表の場としてのMinecraftカップ

【作品テーマ】

Well-beingをデザインしよう

【応募期間】

作品応募期間：2024年6月3日(月)～8月31日(土)

作品応募数：774作品（たてもの部門：395作品、まちづくり部門：379作品）

【技術者と支援者が連携したサポート体制】

技術者側としてマイクロソフト認定教育イノベーターに協力していただき、支援者側としては困難を抱えた子どもたちの学びの場をサポートする全国子どもの貧困・教育支援団体協議会と連携し、困難を抱えた子どもたちに対してMinecraftをつかったプログラミング教育の支援を実施する。

【支援内容】

子どもたちの学びの場をサポートする団体にヒアリングを実施し、ニーズに合わせて、以下の支援を実施

・支援者へのトレーニング、PC・通信端末を貸与、支援者への伴走支援、当事者向けワークショップ

【授賞式】

2025年2月16日（日）現地・オンラインのハイブリッド開催

開催地：大阪環境産業復興センター おおさかATCグリーンエコプラザ

大阪市住之江区南港北2丁目1-10 ATCビル ITM棟11階西側

【審査員】

タツナミシュウイチ（マイクロソフト認定教育イノベーター(MIEE)）：委員長

Kazu（動画クリエイター）

赤土豪一（リクルートキャリアガイダンス編集長、東京学芸大学客員准教授）

高橋タイマノフ尚子（国連政務官）

中島さち子（大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー）

永山祐子（建築家）

平川理恵（前広島県教育長）

渡邊英徳（東京大学大学院教授）

【主催】

Minecraftカップ 全国大会運営委員会

（構成団体：ユニバーサル志縁センター、ICT CONNECT 21）

運営委員長（大会委員長）：鈴木寛

運営委員：赤堀 侃司、池本修悟、土井隆

監事：岡本正

【特別協力】

日本マイクロソフト株式会社

【事務局】

公益社団法人ユニバーサル志縁センター

事務局長：池本修悟、ディレクター：土井隆、マネージャー：大本真希

財務管理：山田幸代、契約業務等：小山田織音

【公式ホームページ】 <https://minecraftcup.com/>

【最終審査会・表彰式】 <https://youtu.be/uW9-nu9AA28>

4. ユニバーサルなはたらく場づくり支援事業

4.1. ユニバーサル就労の普及

ユニバーサル就労(障がいがあったり、生活困窮状態にあるなど、様々な理由で働きたいのに働きづらいすべての人が働けるような仕組みを作ると同時に、誰にとっても働きやすく、働き甲斐のある職場環境を目指していく取り組み)に取り組む企業団体を増やすための普及啓発事業(シンポジウム、メールニュースの配信、イベント等での展示、各種メディアの取材対応等)を実施する。

「[就労支援×地域づくりに役立つ情報サイト](#)」を用いた情報発信を実施した。

4.2. ユニバーサル就労を推進するための調査、研究、政策提案

ユニバーサル就労等を地域社会において推進するために、これまで取り組んできた「生活困窮者自立支援制度における就労準備支援事業の評価ガイドライン」「自立相談支援事業の評価ガイドライン(就労)」「福祉課題への変革プログラムに取り組む実践家と組織の評価キャパシティ形成支援法の開発」研究プロジェクトを踏まえ、適宜、当法人HP「就労支援×地域づくりに役立つ情報サイト」を活用して、若者の就労支援を行う団体に情報提供を行いました。

5. 大規模災害時における復興支援活動事業

5-1.復興活動に取り組む支援団体とのネットワークおよび情報交換、コーディネート等

東日本大震災や熊本地震等、大規模災害時に復興支援活動を行うとともに、復興支援活動に同様に取り組んでいる団体と意見交換の場を開催する(※6)。また、企業等による被災地支援におけるコーディネートを行う。

※6 東日本大震災支援全国ネットワークには、設立時から世話団体として参画

【本年度】

・東日本大震災支援全国ネットワークには世話団体として参画。本年度で東日本大震災支援全国ネットワークは活動終了。

5-2.地域コミュニティ活動支援

2024年度は休眠預金を活用した地域コミュニティにおける復興支援助成についても検討・応募したが不採択。

5-3.地域における震災を踏まえた調査研究

未実施

6. 機関運営（総会、理事会、事務局体制）

- 1 総会
 - 定時総会 2024年 6月15日（土）10:00～11:30
 - 第1号議案 2023年度事業報告の件
 - 第2号議案 2023年度決算報告の件
 - みなし総会 2024年12月 9日（月）15:00～16:00
 - 第1号議案 3-2. 子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供」の本法人における事業移譲について
 - 第2号議案 こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）に係る業務の新設について
- 2 理事会
 - 第1回理事会：定時 2024年5月27日（月）15:00～17:00
 - 第1号議案 社員総会招集の件
 - 第2号議案 2023年度事業報告について
 - 第3号議案 2023年度決算報告について
 - 第4号議案 第6回Minecraftカップのリーフレット制作業務委託の承認について
 - 第5号議案 休眠預金活用助成〔物価高騰及び子育て対応支援枠〕資金分配団体公募への「親に頼れない若者の独り立ちサポート事業助成」申請について
 - 第2回理事会：みなし 2024年8月28日
 - 第1号議案 業務委託契約について
 - 第3回理事会：臨時 2024年9月27日（金）15:00～16:30
 - 職務執行理事の職務執行状況報告
 - 第1号議案 3-2. 「子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供」の本法人における事業終了及び事業移譲について
 - 第2号議案 こども・若者支援全国ネットワーク（仮称）に係る業務の新設について
 - 第4回理事会：みなし 2024年10月28日
 - 第1号議案 主たる事務所の移転について
 - 第2号議案 2024年度Minecraftカップ事業に係る業務委託契約について
 - 第5回理事会：みなし 2024年11月26日
 - 第1号議案 3-2. 「子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供」の本法人における事業譲渡について
 - 第2号議案 臨時社員総会招集の件
 - 第3号議案 ハラスメント防止規程の設置について
 - 第6回理事会：みなし 2025年1月31日
 - 第1号議案 第7回若者おうえん基金助成先採択について
 - 第2号議案 業務委託契約について
 - 第7回理事会：みなし 2025年2月17日
 - 第1号議案 業務委託契約について
 - 第8回理事会：定時 2025年3月14日（金）15:00-16:30
 - 職務執行理事の職務執行状況報告

- 第1号議案 2025年度事業計画案
- 第2号議案 2025年度収支予算案
- 第3号議案 業務委託契約について
- 第4号議案 休眠預金活用「親に頼れない若者のひとり立ちサポート助成事業」助成先の承認について

3 コンプライアンス委員会

第1回委員会 2025年3月31日（月）15:00～15:30

- (1)今年度のコンプライアンスに関する課題
- (2)コンプライアンス施策の検討

4 事務局体制

常勤5名（池本、小田川、岡部、大本、加藤）

総務財務担当理事（非常勤）1名（山田）

7. 資金計画

2024年度公益社団法人ユニバーサル志縁センター収支予算案

8. その他

●訂正事項につきまして

(1)支援ツールの提供による機能強化
専門家派遣や講演会、NPO支援を継続して行う。

《誤》

【NPO法人運営相談】

NPO法人デジタルものづくり協議会

《正》

【NPO法人設立相談】

NPO法人デジタルものづくり協議会

●追加事項につきまして

5.大規模災害時における復興支援活動事業

5-1.復興活動に取り組む支援団体とのネットワークおよび情報交換、コーディネート等

2024年(令和6年)9月21日から23日にかけて石川県能登半島で発生した能登半島豪雨災害に対して当法人が事務局を担う市民キャビネットの部会の一つ、災害支援部会は10月30日フードバンク埼玉と連携し輪島市役所、特別養護老人ホーム ゆきわりそう、石川県災害ボランティア協会、能登町こども食堂に対して水、お米、レトルト食料、おむつ等緊急支援物資をトラック輸送しました。

